

の体にはどこかに障害があるのだろうか」と、ひとり悩み続けてきたのです。便秘外来では、こうした患者さんの秘められた思いを上手に聞き出さなくてはなりません。

ちなみに私は初診の患者さんに対して、まず話の聞き手にまわることにはしています。その後、自覚症状の経過や程度の話から始まって、アントラキノン系下剤の服用期間、治療経験の有無、開腹手術の経験の有無、食生活の内容、ライフスタイルの内容などをゆつくりと聞いていきます。ここまでで20分くらいはあつという間に経過してしまいます。

なお、問診の場合、もうひとつ大事にしているのは、患者さんの症状のつらさを理解するということです。そのうえで、「多くの患者さんが同じような悩みを抱えています。あなただけではありませんから心配しないでください」とお話しすると、みなさん「ホッとしました」といった言葉を述べられるのです。

便秘の裏に重要な病気が 潜んでいないかを調べる各種の検査

問診で病気の状態をある程度、推測することは可能です。しかし、便秘の裏に大腸がんなどの重大な病気があるかどうかを調べるため、便秘外来では、腹部X線（レントゲン）撮影